

日医ニュース

2026. 1. 20 No. 1543

JMA 日本医師会
Japan Medical Association〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)

- 「地域に根ざした医師会活動プロジェクト」第5回シンポジウム 2面
- 日本医師会10大ニュース2025 5面
- 勤務医のページ 8面

中医協総会（令和7年12月26日開催） 診療側から7項目の基本方針を示し その実現に向けた取り組みを求める



中医協総会が昨年12月26日に厚生労働省で開催され、診療・支払両側が次期診療報酬改定に向けた意見を表明。診療側が医科に関する7つの基本方針を示し、その実現に向けた取り組みを求めた。

今後はこれらの意見を基に、個別項目に関する議論が本格化することになる。

基本診療料を中心として上乗せすることなどを要望



意見書の全文

昨年12月24日の予算大臣折衝で決定された改定率等を踏まえ、当日の総会では、診療側委員全員の連名による「国民が望み納得できる、安心・安全で良質な医療を安定的に提供するための令和8年度診療報酬改定に対する二号（診療側）委員の意見」を提出。医科分に

関しては、江澤和彦専任理事がその内容について説明を行った。考え方として、「令和8年意見書の中では基本的

スト等（医業の再生産費用を含む）の適切な反映

は厚労省事務局から、

松本会長

片山財務大臣並びに上野厚生労働大臣に 令和8年度診療報酬改定率の決定への協力に 深い謝意を表明するとともに、 引き続き地域医療を守る決意を伝える



片山財務大臣



上野厚労大臣

（1）昨年12月24日に行われた片山さつき財務大臣と上野賢一郎厚生労働大臣との大臣折衝事項、（2）中医協公聴会の開催

在宅医療、（6）検査・画像診断、（7）投薬・注射、（8）リハビリテーション、（9）精神科

シミュレーション評価料、（10）処置・手術・麻酔、（11）ベッド料、（12）専門療法

スループット評価料、（13）その他

ごとに特に検討すべき事項を明示。

具体的には「初・再診

料、外来診療料の適切な評価については、医療機関の健全な経営のために

評価料を適正に評価

し、職員等の人件費や施設費等のコストに見合った点数に引上げること

医療DXのさらなる推進のための評価」「かかりつけ医機能のさらなる評価」「重症度・医療・看護必要度については大幅な見直しは避け、内科系技術の評価等、不合理な点のは是正に留めるべきであること」「患者への丁寧な説明や同意取得の手間等を考慮し、生活習慣病管理料の算定要件を見直すこと」「ベースアップ評価料は対象職種が限定されている等の課題があることから、基本診療料を中心として上乗せすることなどを要望

として、1月21日オンライン形式で公聴会を開催することが発表された。

この報告を受けて、江澤常任理事は「今後も診療側として、質の高い医療を提供すべく、しっかりと中医協で議論をして

いたされた。

「地域に根ざした医師会活動プロジェクト」第5回シンポジウム

「こどもの救急～夜、休日、急に具合が悪くなったときには？」を テーマに開催

「地域に根ざした医師会活動プロジェクト」第5回シンポジウムが昨年12月7日、「こどもの救急～夜、休日、急に具合が悪くなったときには？」をテーマに開催されました。

医師会館大講堂とWEB配信のハイブリッド形式で、会員登録者数は1,500人を突破するなど、多くの医師が参加しました。

本邦の医療体制や医療制度について、多くの意見が交換されました。

また、医療機関の運営や医療制度に対する議論も盛んに行われました。

最後に、松木紳一郎神奈川県医師会会長による総括演説があり、多くの聴衆が感動的でした。

このシンポジウムは、地域医療の発展と医師会の活動強化を目指す重要なイベントとなりました。

今後も、地域に根ざした医師会活動を通じて、より多くの医師が地域社会に貢献できるよう、取り組んでまいります。

また、医療機関の運営や医療制度に対する議論も盛んに行われました。

最後に、松木紳一郎神奈川県医師会会長による総括演説があり、多くの聴衆が感動的でした。

このシンポジウムは、地域医療の発展と医師会の活動強化を目指す重要なイベントとなりました。



鈴木神奈川県医師会会長

は？」をテーマに、日本医師会館大講堂とWEB配信のハイブリッド形式により開催されました。

冒頭、ビデオメッセージで、あいさつした松木吉郎会長は、医師や医療機関は、子どもの体調不良を始めとする時間外救急対応や健康を支える活動において、保護者の不安に寄り添い、支援に尽力

しているとした上で、「一人一人の医師が全てのケーズに対応するには限界があるため、各地域で医師会を通じて持続可能な体制の構築を行っている」と言及。「今回のシンポジウムを参考にしながら、子どもの救急における地域に根差した医師会活動への理解を深めて欲しい」と述べた。

医師会と「こどもの初期救急～救急か、様子見か？」（座長・鈴木紳一郎神奈川県医師会会長、司会・黒瀬巖常任理事）

第一部では、まず、鈴木会長が座長によるインストロダクションを実施。地道な医師会活動が日本医療の成果につながってきたとし、医師会の三層構造を紹介。具体的には、（1）都道府県医師会が地域住民に寄り添い、市区町村のカウンターパートとして地域保健、予防、地域包括ケアを行っている。（2）都道府県医師会は都道府県と共に地域医療構想や医療計画、医療提供体制づくりを進めている。（3）日本医師会は保健、医療、介護・福祉に関する制度設計や、財源の確保の役

割を担っている」としました。この他、初期救急医療機関には地域で診療の空白時間が生じないよう努めることができることが求められていますことや、神奈川県における小児救急医療体制、小児医療圏の現状なども紹介しました。

次に、茶川治樹山口県医師会常任理事／岩国市医療センター医師会病院長が「来院型オンライン診療」「小児科医不足への一策」と題して講演。同病院では休日・夜間の高齢化と新規開業の減少で人員確保が困難となり、昨年4月から対面診療を補完する目的で、さP with Nによる小児の来院型オンライン診療を開始したことを紹介しました。

また、来院型オンライン診療では、患者が看護師とセンターハンズで連携して診療を受けます。松戸市医師会が運営し、松戸市総合医療センターは松戸市立総合医療センターと連携して、小児救急の適正受診を図っています。

松戸市立総合医療センター長・小児科小児集中治療科部長が「松戸市立総合医療センターと松戸市立総合医療センターとの連携の視点」と題して講演しました。

最後に、當間隆也沖縄県医師会理事が「小児救急電話相談・沖縄県の小児救急適正受診～LINE EX-AIチャットボットを活用した#8000L」を活用した#8000Lを紹介しました。

専用診察室からビデオ通話によって遠隔で医師の診療を受けられるとして、當間理事は同アカウントには、「医師が必要と判断すれば、感染症などの迅速検査、血液・尿検査、吸引、点滴などを医師の指示の下、看護師が実施する。救急医療における新たな診療の選択肢としての活用が見込まれる」と述べた。

勤務医）、小児科非専門医の開業医の計78人がロードーションを組んで、小児科専門医と非専門医をセットにした診療体制を構築している点に言及。「来院患者の中には入院対応が必要なケースや、軽症だと思われるが、判断に迷うケースが当然ある。非専門医が困った場合には専門医がバックアップできる体制を取り、非専門医が安心して救急医療に参加できるようしている」と説明しました。

場面には専門医がバックアップできる体制を取り、非専門医が安心して救急医療に参加できるようしている」と説明しました。

専用診察室からビデオ通話によって遠隔で医師の診療を受けられるとして、當間理事は同アカウントには、「医師が必要と判断すれば、感染症などの迅速検査、血液・尿検査、吸引、点滴などを医師の指示の下、看護師が実施する。救急医療における新たな診療の選択肢としての活用が見込まれる」と述べた。

</div



日本医師会の公式 YouTube チャンネルでは定例記者会見の他、健康に役立つさまざまな情報を紹介した「教えて！ 医君！」シリーズなどの動画を掲載しています。

ぜひ、ご覧頂くとともに便利なチャンネル登録をお願いします。



令和7年12月24日

日本医師会 定例記者会見

「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」の結果を報告

松岡かおり常任理事は、「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」の結果を公表し、全体の休職離職の経験がある割合は減少しているものの、その理由については出産と子育てが多くを占めていることなどを説明しました。

本調査は、病院に勤務している女性医師の働き方、子育て・介護との両立、女性医師としての悩み、医療現場の男女共同参画に関する現状を把握

病院に勤務する女性医師を対象として、2022年11月～2025年1月、病院を通じて調査票を配布。有効回答数は8928人（回収率32.3%）であった。

● 常勤で働く人の割合が約8割から9割に上昇（うち短時間正社員は約1割）。常勤以外となる理由としては、1回目調査では育児と雇用条件が同程度だったが、育児が徐々に多くなり、3回目では約62%に上っている。

おむね十分」が約64%まで増えている。仕事続ける上で必要な制度や仕組みについても、人員の増員・主治医制度の見直しを求める声が増加している一方、割合は高いものの、病児保育などの保育関係・宿泊直免除は減少に転じており、制度が整いつつあることが推察される。

● 仕事を続ける上で必要な制度や仕組みについても、人員の増員・主治医制度の見直しを求める声が増加している一方、割合は高いものの、病児保育などの保育関係・宿泊直免除は減少に転じており、制度が整いつつあることが推察される。

【女性医師の勤務実態】
● 常勤で働く人の割合が約8割から9割に上昇（うち短時間正社員は約1割）。常勤以外となる理由としては、1回目調査では育児と雇用条件が同程度だったが、育児が徐々に多くなり、3回目では約62%に上っている。

【介護中の勤務環境】
● 介護は約12%の医師が経験し、前回と同程度と

なった松岡常任理事は、「女性医師が仕事を続けられる環境は整いつつあるが、依然として改善の余地は残されている」と総括。調査開始からの16年間で社会はめまぐるしく変化したとし、女性医師を取り巻く医療現場の制度や意識改革の現状と課題を明らかにすることについても改めて報告する」とした。

なれば、本調査は、日本医師会女性医師支援センターで行っていたものを引き継いだため、報告書は、日本医師会ドクターサポートセンターのホームページ内「各種資料」に掲載されている。

また(2)に関しては、OTC類似薬が保険適用除外となると、「医療機関にアクセスできたとしても、地方やへき地等でできない地域もあり、そこでは患者に薬が届かない」「院内での処置等に

用いる薬剤や、更には薬剤の処方、または在宅医療における必要な薬剤使用にも影響が出る」などの問題があると指摘。

更に、(3)に関しては、

OTC類似薬の保険適用除外を見送り、OTC医薬品の対応する症状について、適応がある処方箋医薬品以外の医療用医薬品のうち77成分、約1100品目程度を対象に、薬剤費の4分の1を「特別の料金」として求められたな仕組みを創設するとともに、その際に「子ども、がん患者や難病患者など配慮が必要な慢性疾患を抱えている人、低所得者、入院患者、医師が対象医薬品の長期使用等が医療上必要と考

れる—ことを強く主張。また(2)に関しては、「OTC類似薬が保険適用除外となると、「医療機関にアクセスできたとしても、地方やへき地等でできない地域もあり、そこでは患者に薬が届かない」「院内での処置等に用いる薬剤や、更には薬剤の処方、または在宅医療における必要な薬剤使用にも影響が出る」などの問題があると指摘。

今回設けられたことに

なった新たな仕組みの対

象医薬品については、厚生労働省が昨年12月25日に開催した社会保障審議会に77成分を示す案を提示した。

なれば、厚労省はこの案

により、健康被害が懸念されるなど、さまざま

なリスクがあること、患者が何の薬を使っているか、医療機関で把握できなくなるなどの問題も危惧されるとしていた。

OTC類似薬の保険適用除外が見送られることになったことを受けて、松本吉郎会長は「日本医

療機関の早期発見・

治療の機会を失うこ

と、国民の理解を得たた

めの活動も行ってきた。

日本医師会がOTC類似薬の保険適用除外に反対してきた理由として

日本医師会がOTC類似薬の保険適用除外に反

対して、専門家の意見も聞

いていた上で、具体的な負

担の問題、(2)アセ

ス等の問題、(3)医学的

的な見地からの問題

が挙げられる。

(1)に関しては、(1)

医療用医薬品であれば1

～3割の負担であるが、

一般用医薬品ではその10

～30倍の価格になるもの

もあり、その金額が自分

に影響が大きいのが、難

い。

OTC類似薬の保険適用の見直しについて、日本医師会はこの問題が提起された当初から保険適用除外に強く反対する考

察など、病気で苦しむ人々や

医療費助成等、助成の対象外となってしまうな

ど、病気で苦しむ人々や

医療費助成等、

日本医師会
（会員情報室）
03-3942-6482/電話認証センター
03-3942-7050/地域医療課
03-3942-6137/医療技術課
03-3942-6478/日本准看護師推進センター
03-3942-7276/医事法・医療安全課
03-3942-6484/医療保険課
03-3942-6483/情報システム課
03-3942-6506/医賄費対策課
03-3942-6135/公職社法人日本医師会
令和8年度都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会が昨年12月4日、日本医師会館小講堂とWEB会議のハイブリッド形式で開催された。



担当の濱口欣也常任理事の司会で開会。開会に当たりあいさつを行った松本吉郎会長（代読・茂松茂人副会長）は、医療の複雑化・高度化に伴い、医事紛争の事案についても有無責の判断や解決方法が複雑化し、その解決に向けて従来以上の労力を費やしていること、また、患者側の権利意識の向上や価値観の多様化などにより、SNS

「本制度を更に円滑に機能させ、安心して医療に専念できる環境を整えることがより求められないと強調するとともに、本制度の充実は組織強化、会員増強にもつながる重要な取り組みであることから、今後もその対策や支援にしっかりと取り組んでいく考えを示した。

(1)では、石川暢恒広島県医師会常任理事が、①医事紛争対応②市郡地区医師会医療安全研修会補助制度③会員への適切な保険勧奨④警察と引続き事務局より、日本医師会医師賠償責任保険の運営に関する経過

においては、医事紛争対応の流れを紹介するチラシや採血マニュアル等を制作したことを紹介した。

(2)では、三上容司横浜労災病院長が、採血明を行った。

最後に、今村英仁常任理事が「日本医師会としても、各医師会との情報共有や連携を更に強化し、制度の充実や発展につなげていきたい」と閉会の挨拶を行い、協議会は終了となつた。

全国に約6万人いる健康マスター（日本健康生活推進協会認定）の活用を

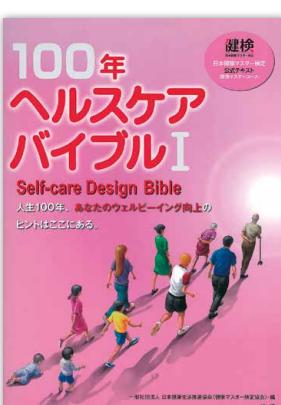
一般社団法人日本健康生活推進協会（理事長：大谷泰夫）は、地域や職場における健康リテラシー向上を目的に2017年から「日本健康マスター検定」（以下、健検）を25回実施、延べ受検者数は10万人を超えていまます。

健検の合格者は「健康マスター」資格を取得でき、現在、全国各地で6万人ほどの「健康マスター」が活躍しています。

健検は「健康日本21」に準拠している公式テキスト「100年ヘルスケアバイブル（日本医師会監修協力）」（I、IIの2冊）から出題されますが、広範な健康分野のセルフケア、コミュニティケアの知識や「かかりつけ医」の重要性など多岐にわたる問題が出題されています。

各種ヘルスケアイベントやモニター制度などにおいて、一定レベルのヘルスリテラシーを有する「健康マスター」の参加や、「100年ヘルスケアバイブル」の活用をぜひ、ご検討願います。

問い合わせ先：健康マスター検定協会事務局



（担当：長谷川、松本）
E-mail: info@kenken.or.jp

デジタル医師資格証とは？

日本医師会が発行するスマートフォンで使える電子版の医師資格証です。



【デジタル医師資格証でできること】

- ・全国医師会研修管理システムで管理している講習会受講履歴と学習単位の表示
- ・電子処方箋発行のためのQRコード読み取り※お使いの電子処方箋システムがカードレス署名に対応している場合
- ・偽造防止策を施した医師資格証の券面情報の表示 など

デジタル医師資格証は、医師資格証（HPKIカードまたはセカンド電子証明書）をお持ちの方がご利用になれるアプリです。

医師資格証をまだ申請されていない方は、是非お申し込みください。

医師資格証申込

検索



日本医師会 10大ニュース 2025

1 かまやち前副会長が参院選にて社会保障関係トップで初当選を果たす



第27回参議院議員通常選挙の投開票が昨年7月20日に行われ、日本医師会の政治団体である日本医師連盟（日医連）の組織内候補として自由民主党の公認を受け、比例区（全国区）に立候補していた、かまやち敏前副会長が厳しい選挙戦を勝ち抜き、17万を超える票を獲得して、社会保障関係ではトップで初当選を果たした。

各地の医師会の協力の下、政府与党始め関係者の支援により、令和7年度補正予算で医療分だけで1兆円を超える予算を、令和8年度診療報酬改定で本体プラス3.09%の改定率を獲得

松本吉郎会長を中心に執行部が一丸となり、各地の医師会と共に、政府与党を始め多くの関係者に対して、医療機関の窮状と支援の必要性を訴えてきた結果、令和7年度補正予算においては厚生労働省関係のうち医療分だけで1兆円超の予算を獲得。また、昨年末に決定した令和8年度診療報酬改定では本体プラス3.09%の改定率を勝ち取った。

3 国民医療を守る総決起大会を開催し、地域の医療・介護の崩壊を防ぐため、補正予算、診療報酬改定での対応を求める決議を採択



国民医療を守るために総決起大会を、日本医師会館大講堂及びサテライト会場合わせて約1万人の参加の下、昨年11月20日に開催。厳しい経営状況を強いられている医療機関・介護事業所等を救うため、補正予算並びに診療報酬改定での対応を求める決議を満場の拍手をもって採択した。

4 法人会員が定期記者会見でトランジットでの改正工事費における賃金・物価の上昇に適切に対応するための具体案を提示

松本会長は昨年10月1日の定例記者会見で、賃上げや物価高騰が続く中での診療報酬改定については、1年目に2年目の賃金・物価の半分を上乗せする、あるいは2年目の分を2年目に確実に上乗せするといった新たな仕組みの導入が必要だとして、2つの案を提示し、その内容を説明した。

5 「医師偏在是正に向けた広域マッチング事業」を受託し、女性医師バンク等の機能を拡充

「医師偏在是正に向けた広域マッチング事業」の事業実施者として、日本医師会が選定されたことを受けて、昨年11月より日本医師会女性医師支援センターを「日本医師会ドクターサポートセンター」に、日本医師会女性医師バンクを「日本医師会ドクターバンク」に改称し、全ての医師を対象にした事業としてリニューアルした。

6 「かかりつけ医機能報告制度にかかる研修」を開始

昨年4月から「かかりつけ医機能報告制度」が施行され、医療機関はかかりつけ医機能に関する研修の修了者の有無などを報告することとなったことを受けて、この研修の対象となるべく、同月から「かかりつけ医機能報告制度にかかる研修」を開始。日本医師会ホームページに特設サイトを開設した。

7 日本医師会の会員数（令和7年12月1日現在）過去最高を更新

日本医師会は昨年12月16日に開催した第10回理事会で令和7年12月1日現在の会員数を報告。前年に比べて1,210人増加し、178,593人となり過去最高を更新した。

8 有料職業紹介事業に関する問題解決のため、病院団体とワーキンググループを設置

長年の懸案となっている紹介手数料の高騰、短期離職などの「有料職業紹介事業」の問題の解決を図るため、病院団体と共に「日本医師会・四病院団体協議会懇談会ワーキンググループ」を設置し、昨年9月24日に初会合を行った。

年度内には何らかの方向性を示す予定としている。

9 「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

令和6年1月に起きた能登半島地震で災害支援活動として展開した日本医師会災害医療チーム（JMAT）の派遣などが評価され、「令和7年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞した。



10 地域ブロック推薦の若手医師4名を初めて世界医師会に派遣

若手医師の医師会活動への参画支援の一環として、全国のより多くの若手会員に各国の医師との交流の機会を提供することを目的として、都道府県医師会の協力の下、世界医師会が理事会・総会に併せて開催している若手医師の会議に、初めて2つの地域ブロックより2名ずつ推薦された若手会員を派遣した。

健康に暮らすための
ちょっとしたヒントを
集めました。

アクセスはこちらから！
<https://www.med.or.jp/people/plaza/>



会議に参加した各国の若手医師

**横浜市立大学附属病院
阿部茉莉愛（関東甲信越ブロック推薦）**

ボルトガルで開催された世界医師会若手医師の会議は、世界各国の若手医師と交流し、医療制度や労働環境、医師の価値観などを学ぶ貴重な機会となりました。

アジア、欧州、北米、南米、アフリカなど多くの国から若手医師が参加し、薬剤耐性と医学教育、医療倫理、パンデミックや、プライマリ・ヘルスケアと非感染性疾病（NCDs）・プラ

更に、日本では労働における安全性が担保されていますが、国によって感謝申し上げます。

世界医師会（WMA）

ポルト総会（ポルトガル） 若手医師の会議 参加報告

日本医師会では、若手医師の医師会活動への参画支援の新たな取り組みとして、世界医師会（WMA）理事会・総会に併せて開催される医学部卒後10年以内の医師を対象とした会議に若手会員（医学部卒後10年以内の日本医師会員）を派遣することにいたしました。全国から幅広く希望者を募るため、全国六つの地域ブロックに対し、推薦の協力ををお願いしたところです。

2025年度の派遣者の推薦は、関東甲信越及び近畿ブロックに力を持ち、10月にボルトガルで開催されたWMAボルト総会に併せて開催された若手医師（WMAジュニアドクターズネットワーク・WMA-JDN）の会議には、神奈川県及び京都府医師会のお力添えの下、2名の若手会員を派遣しました。今号ではその先生方の報告を掲載します。



右から2人目阿部先生、3人目井上先生

ネタリーヘルス（地球規模の健康）など、世界的な問題について議論を行いました。例えば、今回の会議の開催国である、ワインの生産が盛んなボルトガルでは、アルコール摂取の是正についての意見が挙げられ、韓国からは若年層の自殺問題が報告され、メンタルヘルス対策の必要性が指摘されました。

日本は高齢化が進んでおり、高血圧症や糖尿病などの非感染性疾患が増加しているものの、必ずしも適切なコントロールが行われているとは言い難い点を指摘し、どのように解決できるか議論しました。

最後に、このような大変貴重な機会を頂きまして、日本医師会の先生方へ感謝申し上げます。

例え、EU諸国では若手医師の週ごとの労働時間上限は48時間と定められていますが、実際の平均労働時間はこれを10時間以上超える場合もあり、過重労働や待遇への不満から他国へ移住する医師もいるとの報告もありました。若手医師の労

会議を通じて、過重労働を規制する制度があるにも関わらず、実際の働き方との間に大きなギャップがあることを実感しました。

例え、E.U.諸国では若手医師の週ごとの労働時間上限は48時間と定められていますが、実際の平均労働時間はこれを10時間以上超える場合もあり、過重労働や待遇への不満から他国へ移住する医師もいるとの報告もありました。若手医師の労

会議に生かし、医療の実現に貢献してきました。最後に、このような大変貴重な機会を頂きましたが、国によって感謝申し上げます。

（金）

◆申込方法：所属している都道府県医師会に申し込み願います。

◆申込締切：2月27日

◆プログラム：

・あいさつ（松本吉郎会長、田名毅沖縄県医師会長）

・CBRNE戦記－平和国家の国民の命は軽い

（山口芳裕著）

CBRNEは化学（Chemical）、生物（Bio-logical）、放射性物質

が国の大なる脅威の対象

対策を挙げているよう

に、CBRNEは今日わ

日本医師会では、若手医師の医

師会活動への参画支援の新たな取

り組みとして、世界医師会（WMA）

理事会・総会に併せて開催される

医学部卒後10年以内の医師を対象

とした会議に若手会員（医学部卒

後10年以内の日本医師会員）を派

遣することにいたしました。全国か

ら幅広く希望者を募るため、全国

六つの地域ブロックに対し、推薦の

協力ををお願いしたところです。

2025年度の派遣者の推薦は、

関東甲信越及び近畿ブロックに力を持ち、10月にボルトガルで開催されたWMAボルト総会に併せて開催された若手医師（WMAジュニアドクターズネットワーク・WMA-JDN）の会議には、神奈川県及び京都府医師会のお力添えの下、2名の若手会員を派遣しました。今号ではその先生方の報告を掲載します。

（金）

◆申込方法：所属している都道府県医師会に申し込み願います。

◆申込締切：2月27日

◆プログラム：

・あいさつ（松本吉郎会長、田名毅沖縄県医師会長）

・CBRNE戦記－平和国家の国民の命は軽い

（山口芳裕著）

CBRNEは化学（Chemical）、生物（Bio-logical）、放射性物質

が国の大なる脅威の対象

対策を挙げているよう

に、CBRNEは今日わ

日本医師会では、若手医師の医

師会活動への参画支援の新たな取

り組みとして、世界医師会（WMA）

理事会・総会に併せて開催される

医学部卒後10年以内の医師を対象

とした会議に若手会員（医学部卒

後10年以内の日本医師会員）を派

遣することにいたしました。全国か

ら幅広く希望者を募るため、全国

六つの地域ブロックに対し、推薦の

協力ををお願いしたところです。

2025年度の派遣者の推薦は、

関東甲信越及び近畿ブロックに力を持ち、10月にボルトガルで開催されたWMAボルト総会に併せて開催された若手医師（WMAジュニアドクターズネットワーク・WMA-JDN）の会議には、神奈川県及び京都府医師会のお力添えの下、2名の若手会員を派遣しました。今号ではその先生方の報告を掲載します。

（金）

◆申込方法：所属している都道府県医師会に申し込み願います。

◆申込締切：2月27日

◆プログラム：

・あいさつ（松本吉郎会長、田名毅沖縄県医師会長）

・CBRNE戦記－平和国家の国民の命は軽い

（山口芳裕著）

CBRNEは化学（Chemical）、生物（Bio-logical）、放射性物質

が国の大なる脅威の対象

対策を挙げているよう

に、CBRNEは今日わ

日本医師会では、若手医師の医

師会活動への参画支援の新たな取

り組みとして、世界医師会（WMA）

理事会・総会に併せて開催される

医学部卒後10年以内の医師を対象

とした会議に若手会員（医学部卒

後10年以内の日本医師会員）を派

遣することにいたしました。全国か

ら幅広く希望者を募るため、全国

六つの地域ブロックに対し、推薦の

協力ををお願いしたところです。

2025年度の派遣者の推薦は、

関東甲信越及び近畿ブロックに力を持ち、10月にボルトガルで開催されたWMAボルト総会に併せて開催された若手医師（WMAジュニアドクターズネットワーク・WMA-JDN）の会議には、神奈川県及び京都府医師会のお力添えの下、2名の若手会員を派遣しました。今号ではその先生方の報告を掲載します。

（金）

◆申込方法：所属している都道府県医師会に申し込み願います。

◆申込締切：2月27日

◆プログラム：

・あいさつ（松本吉郎会長、田名毅沖縄県医師会長）

・CBRNE戦記－平和国家の国民の命は軽い

（山口芳裕著）

CBRNEは化学（Chemical）、生物（Bio-logical）、放射性物質

が国の大なる脅威の対象

対策を挙げているよう

に、CBRNEは今日わ

日本医師会では、若手医師の医

師会活動への参画支援の新たな取

り組みとして、世界医師会（WMA）

理事会・総会に併せて開催される

医学部卒後10年以内の医師を対象

とした会議に若手会員（医学部卒

後10年以内の日本医師会員）を派

遣することにいたしました。全国か

ら幅広く希望者を募るため、全国

六つの地域ブロックに対し、推薦の

協力ををお願いしたところです。

2025年度の派遣者の推薦は、

関東甲信越及び近畿ブロックに力を持ち、10月にボルトガルで開催されたWMAボルト総会に併せて開催された若手医師（WMAジュニアドクターズネットワーク・WMA-JDN）の会議には、神奈川県及び京都府医師会のお力添えの下、2名の若手会員を派遣しました。今号ではその先生方の報告を掲載します。

（金）

◆申込方法：所属している都道府県医師会に申し込み願います。

◆申込締切：2月27日

◆プログラム：

・あいさつ（松本吉郎会長、田名毅沖縄県医師会長）

・CBRNE戦記－平和国家の国民の命は軽い

（山口芳裕著）

CBRNEは化学（Chemical）、生物（Bio-logical）、放射性物質

が国の大なる脅威の対象

対策を挙げているよう

に、CBRNEは今日わ

日本医師会では、若手医師の医

師会活動への参画支援の新たな取

り組みとして、世界医師会（WMA）

理事会・総会に併せて開催される

医学部卒後10年以内の医師を対象

とした会議に若手会員（医学部卒

後10年以内の日本医師会員）を派

遣することにいたしました。全国か

ら幅広く希望者を募るため、全国

六つの地域ブロックに対し、推薦の

協力ををお願いしたところです。

2025年度の派遣者の推薦は、

関東甲信越及び近畿ブロックに力を持ち、10月にボルトガルで開催されたWMAボルト総会に併せて開催された若手医師（WMAジュニアドクターズネットワーク・WMA-JDN）の会議には、神奈川県及び京都府医師会のお力添えの下、2名の若手会員を派遣しました。今号ではその先生方の報告を掲載します。

（金）

◆申込方法：所属している都道府県医師会に申し込み願います。

◆申込締切：2月27日

◆プログラム：

・あいさつ（松本吉郎会長、田名毅沖縄県医師会長）

・CBRNE戦記－平和国家の国民の命は軽い

